男山八幡神社

道神青

第58号

北海道
神道青年協議会

平成25年11月30日

「北海道・新潟・熊本共同復興支援活動」

於　男山八幡神社
江別神社　権禰宜　内田　京

去る平成二十五年八月十九日から二十一日まで「北海道・新潟・熊本共同復興支援活動」が福島県南相馬市に於いて行われました。北海道は北海道神社庁の後援のもと神社庁札幌支部が主体となり、道神青協は札幌支部からの依頼を受けて第四次復興支援活動として会員十六名が参加しました。

初日は昨年の第三次復興支援活動で「植樹」をした綿津見神社と「縁日」を開催した鹿島御子神社の参拝と周辺の被害状況を視察し、今回復興支援活動を行う南相馬市鹿島区に鎮座する男山八幡神社の境内にて翌日行われる縁日の準備をしました。そして、その夜に男山八幡神社の近くにある小池コミュニティーセンターにて福島県・熊本県・新潟県・北海道の四県合同による交流会を行いました。

二日目は、午後に開催される縁日の時間まで社殿の奉納遷座祭班と縁日班に分かれました。社殿の奉納班は先ず南相馬市小高区に鎮座する相馬小高神社へ、熊本県人吉市の日本で唯一の宮大工を養成する球磨工業高校伝統建築専攻科の生徒達が作成した社殿を奉納しました。次に同じく小高区に鎮座する川原田皇太神宮へもう一宇の社殿を奉納し、相馬小高神社の相馬宮司様の斎主のもと四県よりそれぞれの祭員が選出され、遷座祭が斎行されました。縁日班は現地にて縁日の準備をし、奉納班の到着を待って参加者全員で正式参拝を行い、十四時に縁日が始まりまし

QRコード
復興支援活動の動画です

た。準備から始まるまでの間に大雨が降り、開催できるか不安になりましたが、天候が回復し無事終える事が出来ました。そして、明るく元気で純粋な子供達を見て安心しました。最終的には完全な一つのチームになり、このまま別れるのが淋しいと感じる程でした。

三日目は、前日に社殿が奉納された相馬小高神社と川原田皇太神宮、以前に神社庁札幌支部が社殿を奉納した御刀神社を参拝し、福島神青会の案内のもと周辺の被害状況を視察しました。復興の状況としては、見えるところは復興が進んでいるようですが、立ち入り禁止区域はもちろん、制限区域、入れる区域においても復興したとは言えない状況でした。

全日程を通して感じたことは、被災地では、行政が手を回せない事がたくさんあり、まだまだ多くの人の力が必要です。現地でその状況を実際に見て、また被災された方のお話を直接聞き、胸が熱くなりました。普段の生活を当たり前としている自分自身の日常の有り難さに気づく中、いろいろと考え、感じさせられました。震災からの復興を掲げ「一つに集まり、それぞれが力を合わせて活動するということは大きな力となる」と思われた方は多いと思います。そして、復興にはよりもっと多くの人々の力が必要だと強く思いました。微力ではありますけれど決して無力ではないことを実感することができ、こうした機会を設けて戴けていることに本当に感謝します。ここで体験した活動を氏子崇敬者、参拝者に伝えながら、今後も復興の一助となる活動をしていきたいと思います。

露店の様子

神社境内でのプロレス興行も

取材を受ける道神青会員たち

取材を受ける伊部会長

神道青年全国協議会新規事業品「出張祭典用鞄」のご案内

この度神青協事業委員会では冠から浅沓に至るまで装束一式が入る鞄を誂製いたしました。遠方での祭儀・助勤奉仕・出張祭・神葬祭等に御活用下さい。

鞄・付属品一式　頒価　一〇、〇〇〇円
（装束入れ2個、浅沓入れ、冠・立烏帽子入れ）

付属品単品（浅沓入れ、冠・立烏帽子入れ）
頒価　各一、五〇〇円

お取り扱い上の注意
＊本商品は、完全防水仕様ではありません。
＊丈夫に縫製しておりますが、鞄に強い衝撃を与えると、本体または中の物が破損する恐れがあります。
＊この鞄はあくまでも装束を入れて運ぶための物で、運送や飛行機などの手荷物に預ける際はこわれものはお入れにならないようお願いします。

付属①　装束入れ2個
（鞄・単・袴1組ずつ入ります）
付属③　冠・立烏帽子入れ　付属②　浅沓（草履）入れ

※詳しくは神社本庁内神青協総務局まで
TEL 03-3379-8011　FAX 03-3379-8299

通行証をもらい浪江町に入る

『東日本大震災 福島県双葉郡浪江町 本務神社復興支援活動』に参加して

於　福島県浪江町

樽前山神社　権禰宜　月館　良治

去る平成二十五年九月四日から五日に亘り神道青年全国協議会『東日本大震災福島県双葉郡浪江町本務神社復興支援活動』が行われ、全国津々浦々より六十五名の青年神職が参集、北海道からは前田理事・月館の二名が出向しました。今回の支援先は、浪江町に鎮座する初發神社・浪江神社・貴布禰神社の三社に分散し、活動が行われました。

浪江町は、太平洋に面する福島県浜通りに位置し、海山を有する美しい町でした。あの震災に伴う原発事故により、二年半経過した今なお十五万人余の方が県内外にて避難生活を送っており、未だ手つかずの現状です。そのような中、今年四月一日より、立ち入り禁止の「警戒区域」から「計画的避難区域」に再編され、日中のみ立ち入りが可能となり、今回復興支援活動が行える事となりました。

私が作業をさせて頂いた浪江神社は町の山側に位置し、津波の被害こそなかったものの、御社始め社務所等各所の損壊、鳥居・石灯籠の倒壊に加え雑草が生い茂り、見るも絶えない状況でした。もちろん神社だけでなく、町全体が同様の状況でした。作業は境内の草刈りを中心に行われました。絡み付いた蔦がひどく伸び、草を集めるのに困難を極めました。また御社殿内の清掃も併せて行われました。一同無心で作業を行い、終えた二日目には、氏子さんがお参りできるまで境内は清々しく清掃されました。

倒壊しかけている鳥居

作業終了後、町内各所バスにて視察を行い、二年半の間そのままの街並みを目にしました。沿岸部は特にひどく、つい先日まで津波が押し寄せたかと思うほど、時が止まって見えました。以前、神青協・道神青協と幾度か震災復興支援活動に参加させて頂き、津波被害の甚大さを目の当たりにしてきましたが、二年半ほぼ当時のままです。また、放射線により作業が出来ない現状に心が引き裂かれる思いで現地を視察しました。

今や福島と云えば、地震・津波・原発・風評の被害に加えて、次第に忘れ去られていく第五の被害とも云うべき風化被害に直面しております。何か特別な事がない限り、新聞やテレビで報道をされないのが事実です。しかし今、一番のニュースは何も変わっていない現状なのです。過去の震災において壊れた家を建て直せば、また同じ場所に住むことが出来ます。しかしながら巨大な津波が届いた場所や、原発の放射能で汚染された地域の行く先に光が見えていないのが現状なのです。

今回復興支援活動に参加をさせて頂き、風化をさせない事もより重要な復興支援につながるのではないかと感じました。その為にも活動で見聞きした経験を活かし、周りの方々に伝えると共に、日々の生活の中で、少しでも復興につながる支援を模索しながら、過ごしていかなければならない事を身に凍みて感じた次第です。

社殿前の草刈り

北海道神道青年協議会事業頒布品

「北方領土啓発ステッカー」のご案内

我が国固有の領土である北方領土。不当に占拠されてより七十年が経とうとしておりますが、いまだ解決に向けての道筋さえ見えません。

尖閣、竹島に目がいきがちな昨今ですが、北方領土にも関心を持ってほしいとの思いから、今回ステッカーを製作いたしました。

耐水・耐候性があり屋外掲示が可能ですので、車をはじめ、様々な場所に貼ることが出来ます。是非ご活用くださいますようご案内いたします。

サイズ　８６㎜×５７㎜

頒価　１枚１００円
（送料　８０円　※５枚以上送料無料）
詳しくは道神青協事務局まで

道神青協親睦スポーツ大会

於　青少年会館コンパス

由仁神社　宮司　手塚　裕大

去る平成二十五年十月八日、秋晴れの爽やかな空の下、と言うにはやや微妙な薄曇りの中、平成二十五年度北海道神社庁長杯争奪スポーツ大会が六十二名の参加のもと、北海道青少年会館コンパスの体育館に於いて開催されました。

一昨年より「大運動会」と銘打ったスポーツ大会も本年度で三回目となり、全道より、腕自慢、体力自慢の、いずれも劣らぬ猛者である青年神職が数多く集まり、後の大盛況を予感させました。

体育館に悲鳴が響き渡り轟いた十六人十七脚

受付の後、伊部道神青協会長の開会挨拶、文月会菊池会員の選手宣誓、ラジオ体操など、和やかな雰囲気のうちに開会式が終了。いよいよ熱戦の火蓋が切られました。

最初の競技は、恒例となったミニバレーで、八チーム（各チームをそれぞれ二チームに分割）が鎬を削り、途中、分割された同一チームが、骨肉相食む様相を呈した試合もありましたが、中島Dチームが種目優勝の栄冠を勝ち取りました。

ソフトバレー

続く競技は新競技である十六人十七脚で、各チーム転倒者が続出する事態となりましたが、これも猛者揃いの道神青協によくあるハプニングということで、特段の支障も無く競技は進行し、各チーム共好タイムを記録しましたが、高次元の競い合いの末、三橋チームが勝利しました。

集合写真

次にこれもまた新競技であるフリースローでは、各チームがやはり高いレベルでの接戦で、手に汗握る展開となりました。しかし、総合力で他チームから頭ひとつ抜きん出ていた中島チームが勝利し、北海道神社庁長杯に王手をかけました。

最終競技は恒例の全員リレーで、過去にはハンデとして、怪しげなバトンを使用した事もありましたが、今年はハンデではなく全チーム共通のバトンとして、「大人用紙おむつ」が採用され、来るべき高齢化社会での介護の心の準備として、心憎い配慮が見られました。肝心の競技結果は、やはり中島チームの強さが遺憾なく発揮され、他チームを引き離して文句なしの総合優勝を決定しました。

全競技を終えてみれば、四競技中、実に三つもの種目別勝利をその手に掴んだ中島チームの強さが傑出しており、今後の時代を担っていく予感さえ感じさせました。

ある者は来年の更なる活躍を誓い、またある者はいい汗をかいたという満足感に浸り、皆一様に清々しい表情で、閉会式に臨み、後の懇親会で和気藹々と過ごせた事と思います。

拙い文章であるにも関わらず、道神青通信への寄稿の機会をいただき、感謝の言葉もありませんが、誠にありがとうございました。

優勝した中島チームにトロフィー授与

平成二十五年度道神青協研修会

於　北海道立北方四島交流センター
尻岸内八幡神社　禰宜　荒木　直弥

去る平成二十五年十月二十三日から二十四日、北海道神道青年協議会研修会が根室市の北海道立北方四島交流センターに於いて六十五名の会員並びにご来賓のご臨席を賜り開催されました。「四島への願い～北海道の神職として北方領土問題を考える～」と題し、札幌大学地域共創学郡歴史文化専攻プロデューサーで「北海道の歴史がわかる本」などの著書を出版されている川上淳先生、択捉島元島民で多くの人に北方領土問題の理解と歴史を深めてもらうため「語り部」としてご活躍中の鈴木咲子先生、両講師先生を招きご講演賜りました。

丸井副会長を斎主とし北方領土復帰祈願祭を斎行した

講演内容は第一講に「千島の歴史」と題し川上淳先生に江戸時代中期から幕末以降明治にかけての千島における人々の交流交易の歴史を中心に島の先住民であったクリル人の事などを詳細にお話戴きました。第二講に「故郷に想いを馳せて」と題し鈴木咲子先生に自身の生い立ちと択捉島で生まれ十歳でソ連に強制退去させられた当時の記憶を鮮明に語って戴きました。

集合写真

翌日の第三講はバスに乗り納沙布岬へ移動。移動中の車内で北方領土問題に関するTV映像が放映された車内研修でした。現地にて納沙布金刀比羅神社境内の北方領土早期返還祈念碑の前で丸井副会長を斎主に北方領土復帰祈願祭が厳粛に斎行されました。その後、納沙布岬内の北方館より視察研修が行われました。岬の公園内には巨大なモニュメントが建てられており領土返還実現への固い決意を象徴して四島の架け橋と呼ばれていました。橋の下にある点火台では領土返還が実現される日まで「祈りの火」が音を立てて燃え続けています。

択捉島元島民　鈴木咲子講師

昨今の近隣諸国との領土問題について、諸国の圧力により国の領土が脅かされている状況がニュースなどでも度々報道されるようになり、国民の間で領土問題に対しての意識が徐々に高まって来ているように感じます。今回の研修会で現地を実際に目で見たことは問題意識を高めるのに十分すぎるほどでした。北海道の神職としてこれから北方領土の正しい歴史認識をし、できるだけ多くの人に伝えていかなければなりません。閉講式で伊部会長の挨拶で触れられていたように青年神職はまず「祈り」を捧げることを怠らず、そこから一人ひとりが発信者となり早期返還に繋がるのならば本望です。

望遠鏡の中は北方領土の建物や車が見える

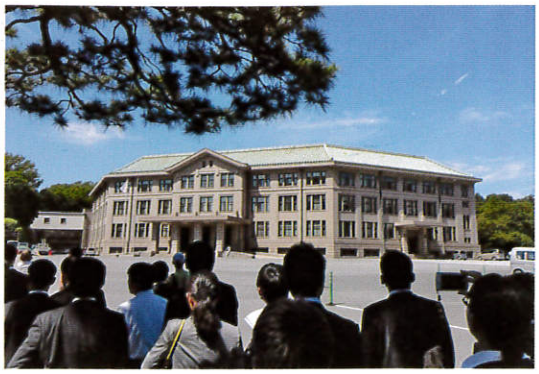
神青協夏期セミナー

於　神社本庁

廣島神社　禰宜　勝沼　達郎

去る平成二十五年八月二十七日から二十八日で神社本庁に於いて、「真の皇室のお姿を拝して」と題して、夏期セミナーが開催され、全国各単位会より多くの青年神職が参加し、道神青協からは五名が参加しました。

第一講では宮内庁式部官（儀式担当）であります飯塚秀行先生をお迎えし、「天皇陛下の御日常」と題して、天皇陛下の国事行為や公的行為の分類や内容に関して詳しく御講義戴きました。講義の中で先生は「陛下は、日本の象徴であることを模索しつつも、国家の平安・繁栄を願っています」とおっしゃっておられました。



皇居内の宮内庁庁舎

第二講では皇室ジャーナリストである高清水有子先生をお迎えし、「天皇皇后両陛下のお人柄と皇室のいい話」と題して、皇室取材を通して知った素晴らしい事や被災地ご訪問について、東北地方太平洋沖地震に関する天皇陛下のおことばに込められた思いを御講義戴きました。

私自身、夏期セミナーは初めて受講いたしましたが、自分自身の知らなかった事だけでなく、知っていた事も詳しく解説戴き、理解を深める事が出来ました。氏子崇敬者に対して、皇室の正しいお姿を伝え、教化活動をしていかなくてはならないと感じました。

今後の日程

平成二十五年度神道青年全国協議会中央研修会

期　日　平成二十六年三月六日（木・先勝）～七日（金・友引）

主　催　神道青年全国協議会

主　管　北海道神道青年協議会

担　当　北海道神道青年協議会

会　場　札幌パークホテル

主　題　『国土と国体を守る』

【第一講】

講　師　東海大学教授・海洋問題研究家　山田吉彦　先生

【第二講】

講　師　俳優・映画監督　津川雅彦　先生

【第三講】

講　師　ジャーナリスト・キャスター　大高未貴　先生

此の度の中央研修会は道神青協の主管の下で開催されます。

会員様におかれましては、御参加の御協力をお願い致します。

何卒、たくさんの参加申し込みをお待ち申し上げます。

編集後記

この度は道神青協通信第五十八号発刊にあたり、社務御多忙の中、御寄稿戴きました会員の皆様に心より厚く御禮申し上げます。

伊部体制は半年が過ぎ、震災復興支援活動、スポーツ大会、研修会等の諸行事を得て、いよいよ来たる平成二十六年三月六日には中央研修会が道神青協の主管で開催されます。会員相互のより強い結束が、益々この道神青協を支える事と成ります。

これからも諸先輩方々を始め、会員の皆様方のご支援ご協力の程、宜しくお願い致します。

（胆振・中島）

題字『道神青』について

本通信は、平成四年二月一日創刊に当たり、当時の中野尹亮北海道神社庁々長に御揮毫戴いたものです。

北海道神道青年協議会事務局
豊平神社社務所内
電話　〇一一-八一一-一〇四九
FAX　〇一一-八一四-四五二四
E-Mail　info@doshinsei.jp